

同級生が描いた子どものころの山口選手の心像絵



# 山口蛍選手を子どものときから知る皆さんにお話を伺いました。

## 父親 チームメイトやスタッフの皆さんに感謝



恵一さんは小さいころの蛍選手(写真左)を「やんちゃ坊主だった」と振り返ります。



山口 恵一さん

わたしも社会人チームでサッカーをしていましたが、特に子どもにサッカーをしてほしいとは思っていませんでした。子どもには好きなことをしてほしいと思っていました。

蛍は保育所に行っていたころから、お兄ちゃんと一緒にわたしの練習や試合に付いて来て、隅でボールを蹴っていましたので、それでサッカーが好きになっていったのかもしれない。

地元のスポーツ少年団に入ったのは、小学3年生のときでした。わたしも当時の保護者会長から誘われチームのコーチになりました。当時の蛍は、今のプレースタイル

わたしも社会人チームでサッカーをしていましたが、特に子どもにサッカーをしてほしいとは思っていませんでした。子どもには好きなことをしてほしいと思っていました。

そんな蛍が、セレッソユース(18歳以下)に上がる際「サッカーをやめる」と言ってきたことがありました。わたしからは「やってきたことがもったいないよ」と話しましたが、聞く耳を持ちませんでした。当時は知らなかったのですが、チームメイトが心配して蛍に電話してくれたことが、チームにもどる大きなきっかけとなったようです。

多感な時期にしっかりと蛍を育ててくれた、それぞれの世代の監督をはじめスタッフの皆さん、そしてチームメイトには感謝の言葉しかありません。

好きなことを仕事にしてくれているのは、親としては嬉しい限りです。これからもケガなく好きなサッカーを続けてほしいですね。

とは違って、一人で何人か抜いて点をとってくるドリブラーでした。小学6年生のとき招待試合で対戦した京都サンガの監督がわたしに「いい選手がいますね。今度セレクション(入団試験)があるので受けに来ませんか」と誘ってくれたのがきっかけで、蛍に近いところ3チーム受けてみるかと言うと「受けてみる」と言ったので受けさせました。

セレッソ大阪のセレクションは4次まであるのですが、2次で合格を出してくれました。一番最初に決めてくれたセレッソ大阪でお世話になることに決めました。

赤目中学校時代は、授業終了後、片道2時間かけて週4日、5日練習に参加していました。家に帰ってくるのは、午後10時、11時になりましたが、文句を言わず、ずっと通っていました。

それは保育所に行っていたころから、お兄ちゃんと一緒にわたしの練習や試合に付いて来て、隅でボールを蹴っていましたので、それでサッカーが好きになっていったのかもしれない。

## 恩師 蛍くんの活躍が、みんなの頑張りに！



三村 まゆみさん

蛍くんが小学1・2年生のときに担任をしていましたが、蛍くんは元気いっぱい、目がきらきら輝いている子どもでしたね。

「大きくなったら」という質問には、いつも「サッカー選手になってゴールを決める」と書いていました。同級生全員がそれぞれの道で頑張っていると思いますが、蛍くんが活躍することで「もっと自分も頑張ろう」と思うはず。蛍くんを含めたみんなのこれからの活躍が楽しみです。

ロンドン五輪では、メダルがとれなくて残念な思いをしました。W杯では、蛍くんの得点を期待しています。



山口 頑張れ!

有志が集まった山口選手の同級生が愛称でエールを送りました。

## 地元 蛍くんは、明るい共通の話題

池上 貞子さん

子どものころ家の前の道をお兄ちゃんと仲良く通学する蛍くんを見ていましたが、サッカーで活躍していることは、アジア大会で得点を決め、ニュースで流れるまで知りませんでした。ニュースを見た後、蛍くんのおばあさんに「本人?」と確認したことを覚えています。

それから夫と一緒に新聞や雑誌の切り抜きをはじめ、自宅倉庫の壁は一面蛍くんの記事や写真でいっぱいになりました。倉庫は近所の人のためり場になり、最近のセレッソの試合や蛍くんの活躍の話題で盛り上がっています。小さいころを知る蛍くんの活躍は、地区での明るい共通の話題です。パワーをもらって若返ります。



ロンドン五輪では、矢川集議所でもパブリックビューイングが行われ、熱い声援を送りました。

※山口蛍選手に了解を得て三村さんにお話を聞きました。